

岐阜県図書館改革方針

新しい時代にふさわしい ——
中核図書館に生まれ変わるために

平成24年5月改定版

平成 24年5月
岐阜県図書館

はじめに

これからの県図書館のあるべき姿とは -

県図書館が果たすべき役割、目指すべき方向性、中核図書館として真に必要な機能やサービスのあり方について、現場の若手職員も含め、県図書館スタッフ全員が一丸となり、図書館機能の大幅な見直しに向けた検討を進め、ここに改革方針として取りまとめました。

県図書館の使命

県図書館が果たすべき役割とは -

県図書館の使命は、常に県民の目線に立ち、県の中核図書館として、新しい時代の要請や、県民の多岐にわたるニーズや課題に、迅速・的確に対応できるよう、県全体の図書館サービスの向上に寄与することにあります。

図書館は、その地域に暮らす人々の課題解決や生涯学習を支えることができる存在となることを求められています。

図書館サービスが向上し、人々へのサポートが充実することは、その地域の文化・産業の発展やまちづくりのための力となります。

県図書館は、こうした使命をミッションステートメントとして、次のように表現し、その実現を目指します。

岐阜県図書館 ミッションステートメント

岐阜のひとづくり、ものづくり、まちづくりを支えます

県図書館の目標

県図書館の使命を果たすためには、どのような機能向上を図るべきか

県図書館は、県の中核図書館としての役割、機能を十分に果たすため、特に、「広域性」「専門性」という2つの視点に着目し、岐阜県全体の図書館サービスの向上を目指すものとします。

なお、目標達成に向けた施策推進に当たっては、「経営の視点」に立ち、業務、組織及び施設活用の全般にわたり、徹底した合理化を進めるものとします。

【視点1 広域性の発揮】

市町村図書館等への支援、ネットワーク化を推進します。

- ・市町立図書館・町村図書室、県立学校図書館等、県内図書館全体のレベルアップにつながる支援、連携強化を図ります。

県内外の情報資源へのアクセス確保・情報集約の充実を図ります。

- ・県内外の図書館間のネットワーク化を一層推進し、情報集約を強化します。

【視点2 専門性の発揮】

県民、行政等の課題解決に役立つレファレンスサービス力を強化します。

- ・全県域の県民や行政からの個別、専門的なニーズや課題に、迅速・的確に対応できるレファレンスサービスの充実と利用促進を図ります。
- ・県図書館独自の強みである児童図書、郷土関係資料、地図資料等のさらなる有効活用に向けたサービスを強化します。

専門性・学術性・希少性を考慮した自律的・重点的な選書・資料収集を推進します。

- ・県全体の資料の効率的な活用のため、市町村図書館等との収集・保存における役割分担を明確にし、専門性・学術性・希少性を考慮した自律的・重点的な選書・資料収集の促進を図ります。

改革に向けた具体的方策

県図書館の目標を実現するために必要な具体的戦略・方策はなにか

「広域性の発揮」に向けた具体的方策

直接来館者への貸出サービス偏重から「全県域への図書館サービス向上」へ

1 市町村図書館等への支援、ネットワーク強化

(1) 全ての県内図書館等の利用促進を図るための支援強化

市町村図書館等では解決できないレファレンスサービス(1)の連携支援を強化します。

市町村図書館等の独自の特徴、イベント情報等を県図書館のホームページにリンクを貼るなど、わかりやすく案内し、県内の公立図書館の利用率向上を図ります。

(2) 次世代育成のための学校教育への支援強化

県内小・中学校、高等学校等の教育に役立つ図書館の活用方法について、積極的に案内します。

「岐阜県子どもの読書活動推進計画(第2次)」の市町村図書館等との協働推進を図ります。

	<p>(3) 県内図書館職員のスキルアップ、交流の場の提供の充実</p> <p>県図書館が実施する研修等を分野別、体系的に見直し、県内図書館職員のレファレンス技能向上など、レベルアップを推進します。</p> <p>県内図書館職員間の情報交流の場として、積極的に研修等の機会を活用し、相互協力体制づくりを進めます。</p> <p>(4) 特色ある県図書館コレクションの活用促進</p> <p>県内の大学、研究機関等との連携による研究や事業の展開等により、県図書館独自のコレクションの一層の利活用を促進します。</p>
<p>2 県内外の情報資源へのアクセス確保・情報集約の充実</p>	<p>(1) 県内外の図書館等とのネットワーク強化</p> <p>愛知・三重の両県立図書館間や県内市町図書館間とは、既に横断検索や相互貸借等、ネットワーク化が進んでいます。さらに隣接県の県立図書館等とのネットワーク化を進め、情報の集約を図ります。</p> <p>(2) 岐阜県の情報拠点として機能向上の確立</p> <p>(社) 岐阜県観光連盟のふるさと情報や観光情報、図書館の分布図情報、過去の郷土資料等のデジタルアーカイブ等をリンクするなど共有し、岐阜県に関する情報の集約・提供を推進します。</p> <p>互いに図書館の郷土資料の充実を図るため、自館が得た出版情報や資料を相互に提供します。</p>

「専門性の発揮」に向けた具体的方策

成果指標は、「貸出冊数」から「レファレンス件数」へ

図書の選書・収集は、「リクエスト的収集」から「自律的な収集」へ

<p>1 県民、行政等の課題解決に役立つレファレンスサービスの強化</p>	<p>(1) 県民のニーズや社会情勢に即応した情報の収集・レファレンスサービスの充実</p> <p>レファレンス事例集の充実、外部データベースの導入、セルフリサーチへの支援、県内専門図書館等との連携によるパスファインダー (pathfinder)(2)の共同活用等を進めます。</p> <p>(2) 県内図書館職員のスキルアップ、交流の場の提供の充実 (再掲)</p> <p>(3) 県民の県政に対する理解と関心を高めるための行政情報発信サービスの充実</p> <p>県が推進する各種施策や県政情報等を、関連情報・資料の展示やレファレンスサービス等を通じて、県民に分かりやすく提供します。</p>
<p>2 専門性・学術性・希少性の高い選書・資料収集を重点的・自律的に推進</p>	<p>(1) 市町村図書館等との収集・保存の役割分担による自律的収集への転換</p> <p>市町村図書館等との連携により、収集・保存における役割分担の明確化を進めます。</p> <p>県図書館では、専門性・学術性・希少性を考慮した自律的な資料収集を推進します。</p>

「経営の視点」からの業務、組織及び施設活用の徹底した合理化

県の中核図書館としての役割を十分に認識し、業務の選択と集中、それに伴う人員の削減、体制の見直しを図るとともに、施設運営面においては、県美術館との一体的な連携強化によるコストパフォーマンスの向上を図ります。

1 中核業務の内容と具体的な見直しの方向性

(1) 主な中核業務と見直しの方向性

市町村図書館、学校図書館等に対する支援業務を強化します。

- ア 図書館の相互貸借(愛知・三重の両県も含む)相互協力強化
- イ レファレンスの支援強化、図書館の専門的助言・指導強化
- ウ 県内図書館職員等の研修機能の体系的再編
- エ 市町村立小・中学校へのセット貸出し文庫等の有効活用
- オ 読書活動支援業務の連携強化

レファレンスサービス業務の強化・充実等を図ります。

- ア 課題解決型レファレンスサービス機能強化
- イ 児童・郷土関係・地図等特色ある独自資料の有効活用
- ウ 市町村図書館等のレファレンスサービス連携・支援の強化
- エ 利用者の自主的なレファレンスを支援するツールの整備促進

選書・受入業務を強化します。

- ア 選書・受入に関する市町村図書館等との情報連携強化
- イ 専門性・学術性・希少性の高い選書・資料収集
- ウ 個人による購入リクエストの制限

図書館サポーター及び各種団体等との連携を推進します。

- ア 図書館サポーターによる本の修理、音訳サービス等の図書館支援の強化
- イ 岐阜県公共図書館協議会、岐阜県図書館協会等における県の中核図書館としてのイニシアティブの発揮
- ウ 団体事業(各種協議会・研究会等)の簡素化

その他周辺業務(中核業務と一体不可分な業務)を見直します。

- ア 閲覧・貸出(カウンター)業務の見直し
 - (ア) AV視聴サービスの原則廃止及び貸出作業の合理化
 - (イ) 逐次刊行物(雑誌、機関誌等)の貸出の制限

	<p>イ 組織及び人員配置の見直し</p> <p>(ア) 貸出カウンター業務の一部非常勤職員での対応化</p> <p>(イ) 郷土資料カウンターと分布図センターカウンターの統合</p> <p>(ウ) 選書方針の見直し、選書業務の合理化に伴う一部非常勤職員対応化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンター業務は、図書の選書から貸出・返却、単純な相談、専門的なレファレンス等、密接な連携が極めて重要であり、一貫した命令系統での運営が不可欠です。 ・貸出・返却などカウンターで直接、県民に接する要員と、その後ろに控えるバックヤード要員が一体的に柔軟な窓口サービスに対応できる体制を確立します。 ・なお、カウンター業務では、全職員の交代制によるローテーションを組み入れ、効率的な人員配置を図る。 </div>
<p>2 施設の有効活用及び県美術館との一体的な連携強化</p>	<p>(1) 県美術館との連携による展示ギャラリーとしての施設有効活用</p> <p>県美術館との連携による展示ギャラリーとして正面県民ギャラリー等を活用します。</p> <p>(2) 県民との協働による生涯学習の場としての施設有効活用</p> <p>1F 楽書交流サロンや企画展示室を県民の生涯学習発表の場として活用します。</p> <p>(3) 研修室やホール等、施設貸出の有料化</p> <p>施設の有効利用を図るため、研修室やホール等を有料化し、一般に開放します。</p>
<p>3 自己評価、外部評価の実施等</p>	<p>(1) 県図書館の自己評価の実施と、外部評価導入に向けた検討</p> <p>「経営の視点に立った」図書館機能の検証と向上のための、自己評価を実施するとともに、外部評価の導入を検討します。</p>

<数字目標値について>

数字目標値は、これまでの単独館としての定数的評価にとどまらず、改革案に沿った岐阜県図書館としての機能の評価を可能とする、県全体の図書館サービスの指標、
県図書館のサービスの質に関する指標など新たな指標を考慮し各年度ごとに設定し、アクションプランの中で公表します。

<用語の定義等（解説）>

レファレンスサービス(1)

レファレンスの定義

レファレンスとは、一般的に情報を求めている利用者に対し、図書館司書が提供する個人的な支援のことで、具体的には、調査、研究等に必要な本の紹介や、本を探す手伝いをすることです。

レファレンスサービスの類型（種類）・範囲

レファレンスサービスは、一般的に「直接的業務」と「間接的業務」に分けられます。

「直接的業務」は、上記で示したとおり利用者の調査、研究等に必要な本の検索や探す手伝いをする中で、「間接的業務」は、直接的業務を出来る限り迅速・正確に実施するため、事前に必要な準備等を行うことです。（二次文献や自家製ツールの作成など）

なお、資格が必要な分野や特別な専門知識等が必要とされるレファレンスは実施出来ませんが、これらを除き、ほとんどの分野でのサービスを実施しています。

レファレンスサービスの利用方法等

（これからの新生県図書館に求められるレファレンスサービスのあり方）

県民の課題解決に応えられる専門的かつ質の高いレファレンスにシフトするとともに、市町村図書館等のレファレンス指導・助言等の支援を推進します。

あわせて、利用者を自主的に課題解決に導くことができる環境を整えるための手段として、パスファインダー等のコンテンツを充実させます。

パスファインダー（pathfinder)(2)

パスファインダーの定義

* Pathfinder・・・小道のパス（path）と探索者のファインダー（finder）を合わせた言葉です。

ある特定のトピック（主題・論題）に関し、資料・情報を収集する際に、関連する資料の探し方を提供するリーフレットのことで、探索法を簡便に示すことを狙った道案内の役割をはたすものです。

パスファインダーの利用方法等

利用者の目線に立ったパスファインダーの作成を推進し、利用者自身がパスファインダーを利用し、資料・情報収集・本の検索等を行うことができるよう、館内にリーフレットを配備、HP上での情報提供などを行います。また、他館とのパスファインダーの相互利用を推進するなど、パスファインダーの利用の拡充を図ります。

効果

利用者の図書資料検索能力の向上、図書館のより質の高いレファレンスサービスの展開が可能となります。